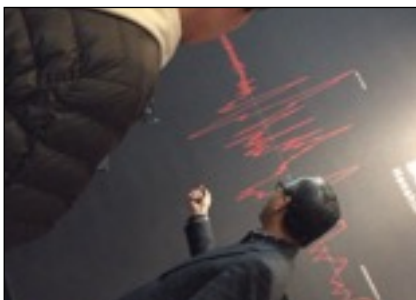


---

# 震災資料保管庫& 三宝JCT見学ツアー

---

阪神高速 2014.12.14



## 動画のように動いて見えだす

土木学会の縁で阪神高速の方に建設中の橋づくりの現場に見学させていただきました。午前中は阪神高速が保管している阪神・淡路大震災で壊れてしまった橋脚や支承や梁をそのまま保存している倉庫を見せていただきました。巨大なコンクリートの塊がいとも簡単に割られていたり、鋼が段ボールのように曲がって潰されていたり、当時の現場のすごさを簡単に想像できます。当時神戸線復旧の陣頭指揮にあたられていた元阪神高速の出口さんの解説もいただきました。地震のエネルギーのすごさ、どれだけ安全につくろう



ともかならず日本では地震がくるので、いつやおこるかもしれないという心の備えをしておくこと、命をどう守るために何ができるのか、基準はあるんだけども設計基準とは別に作る側もそのつもりでそういう気持ちをもって設計しなくてはならない、阪神高速からすれば消し去りたい現物かもしれないが逆に未来に活かすために倉庫で保管しているなどの熱いお話を聞かせていただきました。

午後は、建設途中のトンネルと橋梁架設の現場見学へと案内していただきました。現場の魅力は百聞は一見にしかずといいますが、本当に感激でした。開通したらぜったいにあるけない高速道路の架設現場をあるかせていただき





ました。無意識のうちに生徒のみなさんもコンクリート打設直前の鉄骨の写真を取りまくっていましたが、ちょっとした解説を聞く前なら見過ごしていたものがとても貴重なものにみえてくる瞬間です。鉄骨を継ぎ足すジョイント、それはただの鉄の塊にすぎないのですが、解説を聞くとものすごい貴重なものみえてくるから不思議です。橋脚を覆っている18mmの鉄板も、コンクリート桁と鋼の桁の継ぎ目など、普段なら何も思わないただの高速道路が、動画をみているように動いて見えてくるから不思議です。

百聞は一見にしかずといいますが、なんといっても現物の教育力はすごいです。普通に道路を走っていて、単に目的地への移動の景色にすぎなかった道路の風景が、すごく興味深いものになります。丈夫そうに見える鋼の梁にしても、もしも今地震の力が加わったら、あんなふうに変形するのか、どんなゆれ方で、どんなプロセスであんな風に壊れてしまうのか、弱点はどこにあるのか、など想像だけで、単なる景色が空想の中で動きだします。社会的使命を負った責任ある仕事だなと改めて感じました。

また、工事現場は個人的にも非常に興味があり、打設前の姿はずっと見たかったものでした。計算され設計図におと仕組まれた骨組みだと思っただけで、あの骨組みの鉄骨が何かを語りだしてくる気持ちになります。生徒が「単純そうに見えて実は難しいんだとわかりました」と言っていたが、土木技術のシンプルさにやはり美しさをいつも感じます。ややこしい



プロセスを経ながら、できるだけシンプルにでもシンプルに生み出すというのが美しいんだと思います。

また設計だけでなく現場の職人さんの技能が実際の製品を社会資本に産み落としているんだというのが実感できるのは、見学会の醍醐味でした。（沼田）

